

平成22年度 研究の概要

生き生きと学び合う子どもの育成<3年次>

～「教えて考えさせる授業」を通して、すべての子どもに「確かな学力」を～



寒河江市立南部小学校

平成22年度 学校研究 全体構想図

教育目標

学び確かに 心豊かに 体健やかに

研究主題

生き生きと学び合う子どもの育成 <3年次>

～「教えて考えさせる授業」を通して、すべての子どもに「確かな学力」を～

【県五教振】

【やまがたC改革】

【寒河江教育振興計画】

【保護者・地域の願い】

確かな学力・豊かな人間性

【本校の緊急的な課題】

◎基本的生活習慣の確立

◎学びに向かう姿勢

・学習規律の確立

◎家庭・地域との

学習上の連携

【子どもの実態】

・基礎的基本的な学力の

定着が弱い（算数）

・個人の学力差が大きい

・知識の活用が難しい

【指導形態の工夫】

少人数指導、TTの充実

【家庭学習】

・予習や復習、宿題

・家庭学習の手引き活用

（学び方の指導）

教えて考えさせる授業

～4つのステージ～

I 予備的知識・

先行学習（しる）

II 理解確認（たしかめる）

III 理解深化（かんがえる）

IV 自己評価（ふりかえる）

【基礎学習の時間】

・つくし学習

計算等の基礎的な学

習・反復（スパイラル）

による習熟と定着

【放課後学習】

・学びのルーム活用

これからの教育

・習得と活用、探求のバランスのとれた学習活動

・体験的活動、言語活動の充実

【めざす子ども像】

・基礎的な知識や技能を身につけ、活用していくことができる子ども

・自分の考えを持ち、伝え合うことができる子ども

・互いに学び合い、学習に意欲的な子ども



【研究の概要】

1 研究主題

生き生きと学び合う子どもの育成 <3年次> ～「教えて考えさせる授業」を通して、すべての子どもに「確かな学力」を～

2 主題設定の理由

平成23年度より完全実施となる新学習指導要領においては、「生きる力」の理念はそのままに、児童一人ひとりに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育てることが求められています。これは、本校の教育目標である「学び確かに 心豊かに 体健やかに」と直結しています。

また、生きる力（知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力・課題発見力・問題解決能力、さらには、学ぶ意欲や学び方などを総合的にとらえた学力）の実現のために「習得・活用・探究」「言語活動の充実」も重要視されています。

こうした社会的情勢の下、本校の子どもたちは、以下のような点に弱さが見られました。

- ①基礎・基本の定着にやや不十分な面があると共に、学習した内容を活用する能力に個人差が大きい。
- ②問題解決的な学習のよさを十分生かしきれず、新しい学習事項を丁寧に教えたり、児童・生徒の理解状況を確認したりすることが不十分なまま授業が進むという現状が見られ、そのため、理解に時間を要する子どもは自力解決もできず、討論にもついていけなかった。

こうした実態を受け、本校では、昨年度より「教えて考えさせる授業」を授業改善の一つの方法的な視点として取り組んできました。そして、以下のような成果と課題が生まれました。

<子どもの成果>

- ・課題に対して教師がわかりやすくていねいに教えるため、理解に時間を要する子どもも安心して問題に取り組めたり、ノートの取り方がわかってきたりしている。

<教師の成果>

- ・「この時間で何を教えるか」を、教師が明確に持つことがとても大切だと再認識できた。子どもの実態から「何を教えるのか」「何を子どもに任せるか」を考えて授業を仕組むことの大切さを改めて学ぶことができた。

つまり、「教えて考えさせる授業」をもとにした授業改善により、子どものみならず、教師の意識改革にもつながったのです。しかしながら、同時に課題も出ました。

<子どもの課題>

- ・授業前半が教師の教えるという活動のため、どうしても、子どもが受身がちになってしまう。

<教師の課題>

- ・単元や題材、また、子どもたちの実態によっては、教えて考えさせる授業が窮屈である。

先述したように、今回の学習指導要領では、基礎基本の習得と活用、探究が強く謳われています。日々の授業実践の中で、習得や活用が図られるために、「教える」とはどのようなことか、「何をどう教えるのか、考えさせるのか」を常に念頭に置きつつ、昨年度に引き続き、「教えて考えさせる授業」を通して、子どもたちの学ぶ意欲や学力を高めていきたいと考え、この主題を設定しました。

3 研究の視点

研究にあたっては、本校の子どもたちの実態から、教えるべきことをきちんと習得させ、問題解決を通して、思考力、判断力、表現力を育てるべく、昨年度に引き続き「教えて考えさせる授業」を、授業の一つの方法的な視点とします。

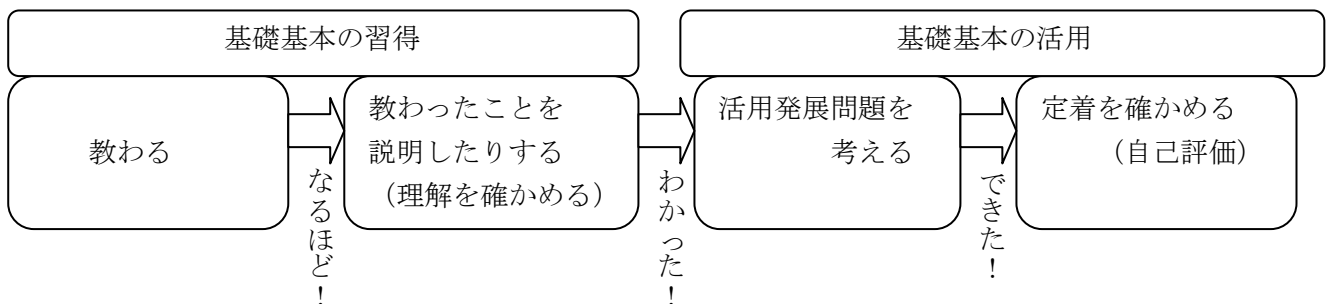
教科書に示されているような基礎的な知識・技能を習得させ、活用できるようにすることは、日々の授業のめざすところです。そして、教科書をこえたより高い質の学び合いをもめざしたいと思えます。確かな学力を育てて、めざす子ども像に迫るためには、学校として共通の視点に立つ授業を展開しなければなりません。

そのような観点から「教えて考えさせる授業の考え方」をよりどころにして、また、昨年度の課題をクリアする南部スタイルを確立していきたいと考えています。

4 研究計画

(1) 「教えて考えさせる授業」について

「教えて考えさせる授業」とは、東京大学の市川伸一教授が提唱するものです。(別紙文献参照) これまでの多くの授業は、児童・生徒が主体となり問題解決を行うことを目指して行われてきました。しかし実態は、すぐに理解できる子どもにとっては簡単すぎ、ゆっくり理解していく子どもにとってはどのように問題解決を行ってよいか分からないといった授業になりがちでした。その結果、理解の早い子どもは退屈し、理解の遅い児童・生徒は分からないまま時間だけを浪費してしまう現状であったと反省します。そこで、どの子どもにも基礎的・基本的事項の定着を図り、学習内容を活用する力をつけるために、授業の前半に「基本的な事項は教師から共通に教え」、授業の後半に「理解を深める課題によって問題解決や討論を行う」という授業の流れが「教えて考えさせる授業」といえます。



これをもとに南部小では、教えて考えさせる授業を次のように定義したいと考えました。

教師が子どもの実態を的確に把握し、
全体や個・グループに応じて、考えを深める上で必要な知識や技能内容を分かりやすく教え、
それを土台に、どの子も問題解決に向けてじっくり考えたり、学び合ったりする授業

(2) 基本的な単位時間の構成（「教えて考えさせる授業」モデル）

昨年度の実践からの反省点を取り入れ、以下のような点に留意しながら授業を作っていきたいと思えます。

①授業作りの手順

- ・本時の目標（ねらい）を明確にする。
- ・ねらいに到達させるために、子どもに何を教えるのか、考えさせるのかを明確にする。
- ・学習の途中で、きちんと理解しているか、理解度を図りながら授業を仕組む。

②「教えて考えさせる授業」モデル（南部スタイル）

段階	内容	○教師 と ・子ども
教える	I し る	後半の考えるために必要な知識技能を教わる ・予習の確認や例題を解く (無理のない程度) ○具体物を用いるなど、解き方の説明を分かりやすく工夫する。 (受身にならないような工夫・問題解決の必要感が生まれる工夫)
		II た し か め る
考えさせる	III か ん が え る	間違いやすい問題や教わったことを活用して問題を解く。 ・問題（応用的内容）を解く。 ・学び合い活動（小グループ等） ・考え方の全体発表等。 ○状況に応じて指導する。 理解度チェック
		IV ふ り か え る

ポイント

新しい学習内容を
ていねいに教える
※一方的な説明ではなく
「対話的な説明」をする。

新しい学習内容について
理解度を確かめる
※基本的な問題を課したり
説明させたりする。
(ペア・小グループ等)

教えた知識・技能を活用する
問題解決に取り組みさせる
※誤解しがちな問題、応用、
発展等の問題をさせる。
(集団解決等)

わかったことやわからなかったことを自己評価させる
※理解状況をとらえて個別
指導にいかす。
(メタ認知)

【昨年度の実践を受けての修正点】

領域単元の特性や子どもの実態に応じて
A：1単位時間が「しる」のみ
B：1単位時間が「しる」「たしかめる」まで
C：2単位時間で「しる」～「ふりかえる」まで
柔軟に構成する

教えることが中心となる「習得の授業」と問題解決を通して考えさせることが中心の「活用の授業」のバランスを柔軟に。
→指導者の明確な授業構成が必要

(3) 学びの環境整備

「確かな学力」を育てるためには、学習の規律や習慣を育て、学習内容の習熟と定着を図ることが必要ととらえ、次のように、授業と関連する取り組みをしていきます。

① つくし学習（ドリルタイム）の導入

- ・ 1 学年下の学習内容を、反復（スパイラル）し、基礎の習熟と定着を図る。

② 家庭学習の手引きの作成

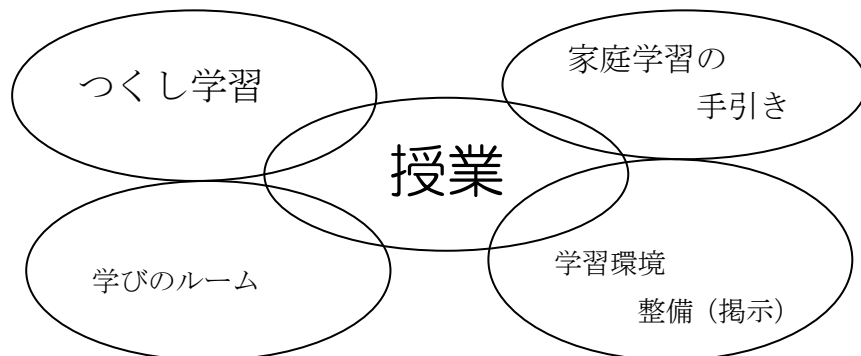
- ・ 家庭で勉強する習慣を身に付けさせるとともに、授業の予習や復習にも生かせるように勉強の仕方を記した手引きを配付し、家庭の協力を得て、学習習慣を育てる。

③ 学びのルーム活用（放課後学習）

- ・ 授業でのつまづきに対応するとともに、個々の学習状況に応じた指導を通して、学び方も身につけさせる。

④ 学習環境整備（掲示）

- ・ 算数での量感等を養うコーナーを校舎内に設けたり、学習ノートの上手な子どもの掲示をしたりする。



4 研究の進め方

めざす子ども像にせまるために、算数を教科の窓口として進めていきます。

5 研究の仮説と重点

仮説 1 （教える段階の工夫等）

「教える段階」において、新しい学習事項を丁寧に分かりやすく教えれば基礎的・基本的事項を確実に定着させることができるであろう。

仮説 2 （考えさせる段階の工夫等）

「考えさせる段階」において、新しい学習事項の理解確認を的確に行い、理解を深化させる課題設定や場の工夫をすれば、活用力が育つであろう。

◎仮説の重点

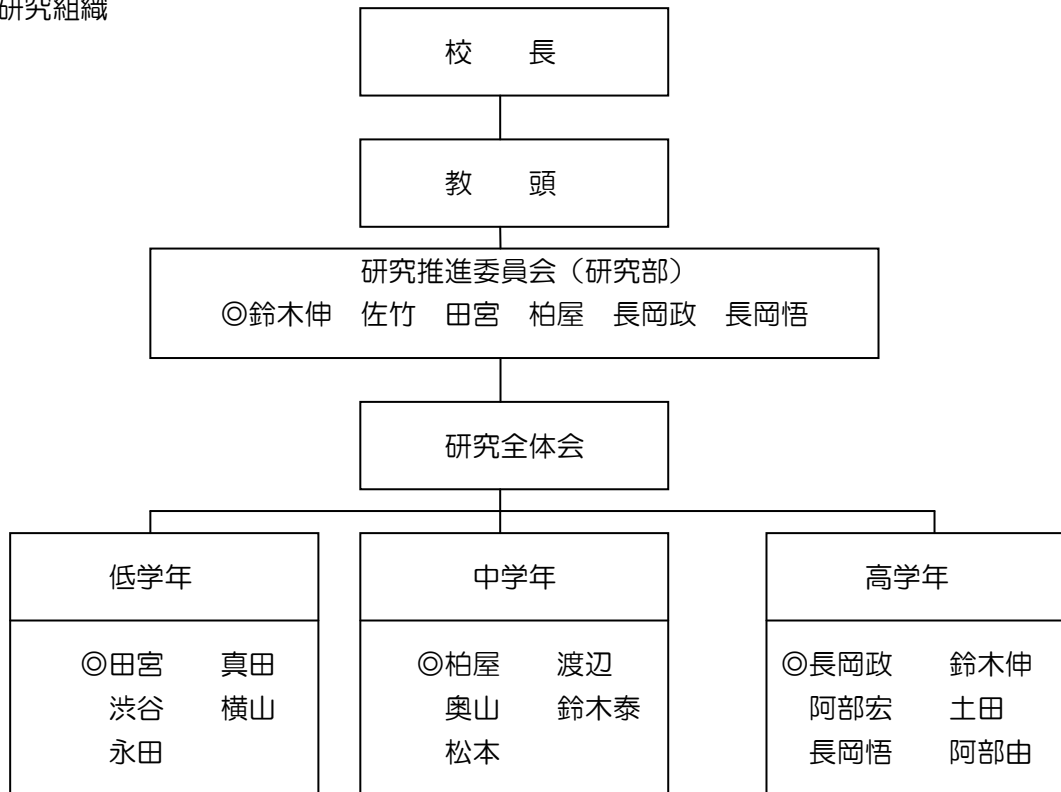
仮説 1 について

- ・ 具体物や映像を見せる
- ・ いろいろな例をあげる
- ・ 操作活動を取り入れる
- ・ 比較させる
- ・ 考える手法を教える
- ・ 問題文をかみくだく 等

仮説 2 について

- ・ ペア、小グループでの説明活動
- ・ 教え合い活動
- ・ 理解度のチェックシート、サイン
- ・ 理解深化課題の設定（間違いさがし、穴あき、過不足のある問題、問題づくり、教科書の発展問題）の工夫
- ・ 共同解決、討論
- ・ 自己のふりかえり方法

6 研究組織



7 研究授業計画

別紙参照

8 指導案の書き方について

別紙参照

9 研究紀要について

今年度は自主公開研究会を予定。よって、授業後に 各自 A4 2枚を 研究の仮設にそってまとめる。

自主公開研究会以前に行ったものを第1部とし、それを紀要としてまとめる。

自主公開研究会以後に行ったものは、紀要の第2部として、23年1月にまとめる。

7 研究授業計画

月	日	(曜日)	低学年	中学年	高学年	備考	
4	21	水	校内全体研修会①				
5	24	月			6-2 鈴木	授業改善プロジェクト	
6	16	火			ひろのみなみ		
6	21	月	1-2 真田	4-1 渡辺		指導主事招聘	
6	30	水	計画訪問のため、全クラス各教科授業			村山教育事務所計画訪問 授業改善プロジェクト	
7	2	金	校内全体研修会②				
8	18	水	校内全体研修会③および授業改善プロジェクト(事前研)				
9	15	水		4-2 柏屋			
9	27	月	2-2 横山				
10	15	金	2-1 渋谷	3-2 鈴木泰	5-1 土田 5-2 長岡政	自主公開研究会 授業改善プロジェクト	
10	25	月		3-1 奥山			
11	10	水	1-1 田宮		6-1 阿部宏	指導主事招聘 授業改善プロジェクト (研究の今後の方向性)	
11							
12							

村山教育事務所「授業改善プロジェクト事業」への取り組み

- ・5月24日(月)の授業研・事後研に参加→
その後、6月30日(水)に算数をするクラスの事前研に参加
- ・6月30日(水)に授業をみて事後研
- ・8月18日(水)の夏季研修で、10月15日(金)の事前研
- ・10月15日(金)自主公開研への参加
- ・11月10日(水)研究のまとめと今後の方向性について

8 指導案の書き方について 【指導案例】

第○学年○組 算数科学習指導案

平成22年○月○日 ()

指導者 ○ ○ ○ ○

(男○名 女○名 計○名)

1 単元

2 目標

- (1) (関心・意欲・態度)
- (2) (数学的な考え方)
- (3) (表現・処理)
- (4) (知識・理解)

3 単元について

- (1) 児童観
- (2) 教材観
- (3) 指導観

単元全体を通して、習得型の授業 活用型の授業のバランス的なもののかいたり、指導の工夫をかいたりする。

4 研究テーマとのかかわり

- ・ブロックでめざす子ども像

低学年・中学年・高学年でめざす子ども像を考えます。

【めざす子ども像】

5 指導計画 (全○M 本時○M)

時数 (M)	主な学習内容	◎支援 ◇評価基準 □評価の方法

6 本時の指導

- (1) 目標
- (2) 研究の視点
 - ・仮説1について
 - ・仮説2について
- (3) 展開

教える段階での、本時の工夫

考えさせる段階での、本時の工夫

段階	学習内容	○指導上の留意点 ・具体的支援 □評価
し る		
た し か め る		

か ん が え る		
ふ り か え る		

6 板書計画

※ 実際の授業では、学習の道筋（4つのステージ）で、どの子にも、今、どこを学習しているかわかるように **しる** **たしかめる** **かながえる** **ふりかえる** などの マグネットシートなどを準備してはどうでしょうか。

7 座席表

- ・特に配慮を要する子

実際の指導案では、授業者のねらいにより、段階が4つにならないこともあります。

参考文献・資料等

- ・学ぶ意欲とスキルを育てる 市川伸一 小学館 2004
- ・「教えて考えさせる授業を創る」市川伸一 図書文化 2008
- ・自ら学びを高める子を育てる「教えて考えさせる授業」～横浜本町小の挑戦～ 明治図書
- ・教えて考えさせる授業～学力向上と理解深化をめざす指導プラン～ 市川伸一・鏑木良夫 図書文化
- ・埼玉県新座市立栄（さかえ）小学校 研究概要 2008 2009
http://www.c-niiza.ed.jp/e-sakae/contents/kenkyu/kenkyu_set.htm
- ・宮城県黒川郡大衡村立大衡（おおひら）小学校 研究概要
<http://www.pref.miyagi.jp/kyou-kikaku/oohira.html>
- ・明治図書「授業研究21 2010年2月号」教えて考えさせる授業の工夫・どこを見直すか
<http://www.meijitosh.co.jp/edudb/contents.asp?isbn=09640>
- ・ベネッセ教育研究開発センター（神奈川県横浜市立本町小学校の実践）
http://benesse.jp/berd/center/open/syo/view21/2007/09/s03chal_01.html
- ・長崎県教育委員会「新しい学習指導要領に対応した授業作りの提案～教えて考えさせる授業への転換」
<http://www.edu-c.pref.nagasaki.jp/box/siryobox/osiete/osietemodel.pdf>
- ・宮崎県串間市教育委員会「活用力を育てる授業づくり～教えて考えさせる授業への取り組みを通して」
<http://mkkc.miyazaki-c.ed.jp/kenkyouren/20kenkyouren/data/kushima.pdf>

